

# ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 29 - 2

平成30年2月8日

農業総合センター有機農業推進室

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4>

[/nougyou-centre/index.htm](http://www.nougyou-centre/index.htm)

TEL 0249581711 FAX 0249581730



## 環境にやさしい農業セミナーを開催しました

農業総合センター有機農業推進室

平成29年12月20日に、農業総合センター大会議室において環境にやさしい農業セミナーを開催し、約80名の方に参加頂きました。

このセミナーでは、宮崎大学の**大野和朗**教授より「身近な昆虫の力を活用した環境にやさしい農業～土着天敵を活用した総合的害虫管理について～」と題し、ご講演をいただきました。講演では、次のようなお話がありました。

- ・良い虫（天敵）が、畑に早く来てくれるほど、害虫被害が少なくなる。そのためには、畑の周辺環境が大切。天敵が生息できる場所が必要。
- ・雑草は、天敵の越冬場所であり、繁殖場所となっている。畑、果樹園、水田の周辺の植生（天敵温存植物を含む）を豊かにしよう。
- ・天敵温存植物の特徴は、花粉・花蜜が豊富で、たくさんの花が集合して一つの花となっている。
- ・主な天敵温存植物：ノースポール、スイートアリッサム、ハゼリンソウ、ソバ、クレオメ、ゴマ、スイートバジル、ホーリーバジル、シナモンバジル、コリアンダーなど。

出席者からは、「素晴らしいセミナーでした」「初めて聞く内容で大変勉強になりました」「ほ場周辺の雑草も捨てたものではないことがわかりました」など感想をいただきました。福島県の野菜ほ場の周辺にソバの花が咲いている、そんな風景が増えるかもしれません。



宮崎大学 大野和朗教授の講演

## 福島県有機栽培米生産者訪問見学会を開催しました

農業総合センター有機農業推進室

本県産の有機栽培米の販売促進を図るため、「環境にやさしい農業拡大推進事業（有機エコ農産物の流通・販路拡大支援事業）」の一環として、株式会社アグリ・プラン（東京都文京区）と有機農業推進室が連携し、「福島県有機栽培米生産者訪問見学会」を開催しました。

見学会は3コースを設け、首都圏の米穀小売店によるコース選択型とし、それぞれのコースで①有機栽培米生産ほ場と②米全量全袋検査場を見学しました。東京都の米穀店から10名、神奈川県5名、埼玉県1名、千葉県3名、計19名の参加がありました。

参加した米穀小売店からは、次のような意見がありました。

- ・県、JA、生産者のそれぞれの立場から話しが聞けて勉強になりました。（浜通り）
- ・米の食味と生産者の人柄、栽培方法などお客さんへ伝えることができます。（浜通り）
- ・有機農業の取り組みを生産者から直接聞くことができ勉強になりました。（中通り）
- ・雑草の少ないことに驚いた。お客さんにお米のことをもっと知ってもらいたい。（中通り）
- ・有機JASの米を扱うために、販売側の設備・環境を整える必要があります。（中通り）
- ・色彩選別機は必須ではないでしょうか。（中通り）
- ・1年過ぎのご飯がこれほど甘くておいしいのは、玄米が活着しているからか。（会津）
- ・グローバルGAP認証取得に向けて農薬の保管など整理整頓がしっかり行われており安心できます。（会津）

今後も、首都圏等の米穀小売店と有機JAS認証を取得している米生産者との交流の場を設けていきたいと考えています。

〔浜通り・Aコース〕	〔中通り・Bコース〕	〔会津・Cコース〕
9月17日（日）いわき市 ①あじま農園 ②JA福島さくら	9月17日（日）郡山市 ①石澤農園 ②JA福島さくら	10月1日（日）会津若松市 ①（有）すとう農産 ②（株）あいづ松川
		

## 有機JAS認証+GAP実践でより良い農産物生産を！

会津農林事務所農業振興普及部

福島県では、安全で高品質な農産物生産により風評を払拭し、さらなるブランド力向上と消費者から信頼される産地づくりを進めるため、認証GAPの取得に向けた取組を支援しています。

会津地域は、県内でも特に積極的に取り組んでいる地域です。国際認証であるGLOBALG.A.P.の取組が多く、12月末現在でGLOBALG.A.P.を取得した8件の農家のうち、4件が有機JAS認証農家です。



そのうち、会津若松市の（有）すとう農産では、平成29年11月17日に県内の水稲有機JAS認証農家でのGLOBALG.A.P.取得第1号となりました。

有機栽培は、農産物の安全性の確保につながる取組であり、GAPを実践することで、品質向上などさらなる農産物の信頼につながるほか、生産コストの削減、農作業事故防止など、経営の合理化や経営を継承しやすくなるなどのメリットがあります。

また、GAPの実践には農場管理に関わる記録や証明の保管が必要となりますが、有機JAS認証農家の場合、JAS申請時の書類の多くが利用できます。

（有）すとう農産では、GAPを始めて、「農場を管理する」という意識が高まり、「安全な農場管理をするにはどうしたらいいのか、本当にこれで大丈夫か」と、常に問いかけながら、農場管理のシステム全体を考えるようになったそうです。

有機JAS認証と併せて、GAPを実践することで、農場運営の向上やより一層の農産物の安全性と信頼確保が期待されます。

会津地域では、今後も有機栽培農家のGAP取得が続々誕生予定です。



GLOBALG.A.P.の認定証を手にする、  
（有）すとう農産 須藤健代表と須藤Bond亜貴氏 兄妹  
（右：GLOBALG.A.P.認定証）

## 有機農業理解促進のための講座を開催！

農業総合センター有機農業推進室

福島県では、「有機農業に関する理解促進のための講座」として、桜の聖母短期大学と連携し、食物栄養専攻の学生を対象に有機農業・有機農産物を知って貰う取組を平成27年より行っています。平成29年度も有機農業に関する講義と有機栽培ほ場の見学を行いました。

10月12日の講義では、有機農業推進室から有機農業に関する内容と、（株）いちい商品部青果アシスタントバイヤー遠藤邦博氏より有機農産物の流通販売について講義を行いました。また、フォーズ・マーケット霞浩一郎店長にご協力頂き、店長自らが素揚げしてくださった有機栽培のじゃがいもと、ミニトマトを実際に試食しました。



遠藤氏講義の様子(上)  
試食した有機野菜(右)



講義前に実施したアンケートの中では、有機農業・有機農産物のイメージとして「安全安心」「おいしい」「環境によい」等の意見が多かった一方、「よくわからない」「値段が高い」「売っている場所が分からない」等の意見もありました。講義後に実施したアンケートでは、有機農業・有機農産物への理解がより深まり、実際に購入してみたいという意見が全体の7割に増加しました。



ホウレンソウ収穫体験

10月28日のほ場見学では、二本松市のオーガニックふくしま安達関元弘氏より、どのような考えに基づいて有機農業を行っているのか等を話していただきながら、ホウレンソウやミニトマトの収穫体験を実施しました。ほ場の生き物の多さに驚き、興味を持つ姿が印象的でした。その後、ふくしま農家の夢ワイン(株)のワイナリーに場所を移し、有機農産物を使った昼食を取りながら交流会を行いました。

今後も本講座を通じて有機農業・有機農産物を自身の生活や将来の職務の中に取り入れ、そこからまた新たに発信して頂けるような機会を作れるよう取り組んでいきたいと考えています。


## 有機農業セミナー 親子で遊ぶ・学ぶオーガニックじゃがいも掘りとり体験会

[相双農林事務所双葉農業普及所](#)

平成29年7月20日(木)、消費者の方々へ有機農業をもっと良く知ってもらうため、子育て世代の方々を対象とした「オーガニックじゃがいも掘りとり体験会」を開催しました。

体験会には、いわき市内の学校法人明照学園九品寺附属幼稚園・平窪幼稚園に通う園児と保護者33名が参加しました。

まず、幼稚園内で、保護者の方々に有機農業、有機農産物の表示制度を学んでいただいた後、バスに乗っていわき市平下大越の有機農業者 小林勝弥・美知さんの有機じゃがいも畑へ移動し、掘り取り体験を行いました。子供達は、掘ったじゃがいもの大きさを比べあってはしゃいでいました。掘り取り作業に汗を流した後、茹でたてのじゃがいもをみんなで試食しました。

保護者からは、「有機JASについて良くわかった。美味しく、楽しかった」などの感想が寄せられ、有機JASマーク(  )の理解が広がることを期待されます。



児童へ芋掘りを教える小林氏(上)  
掘りとり体験の様子(下)

